

そっ たく 啖啄

令和5年2月1日刊行 No.21
編集・発行 大島町教育委員会
教育文化課事務局
TEL04992-2-1453
題字「井島 吉春」

「ツバメと私」

教育長 谷 口 淨

生涯学習センター・郷が運営されてから二年目の夏を迎えた。以前の図書館とは比べものにはならない建ものに生まれ変わっている。当然、利用者も多くなっている。今度は蔵書を少しでも多くしたいと思い、住民の皆様からの貴重な資料、蔵書もご寄贈頂いたり、東京都の図書館や、知り合いの区の職員を頼りに除架図書や廃棄される図書があれば、大島町図書館にご寄贈下さいとお願いしています。また、そのことを聞いた個人からの寄贈もあり多くの方々から応援して頂き、図書館としても大変助けられています。

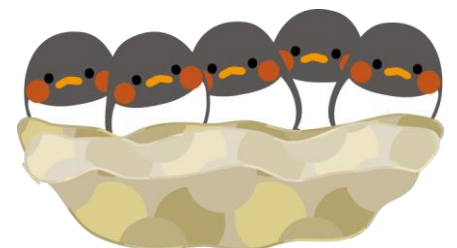
色々な街の図書館をみても、その街に図書館が幾つあるか、人口比からみて、多くの図書館・資料、蔵書の種類や冊数の多さなどにふれると、その街の文化度や住民のニーズの高さが伺えるものだと思っています。そこで学習した人々は、それを日常生活に生かし、ひいては街を活性化する起爆薬になり得ると信じています。今後も図書館の充実を図ってまいります。

別の話になりますが、昨年の夏の6月ごろから、図書館の周りを数匹のツバメが飛んでいることに気付きました。「ああ今年もツバメが日本に来る時季になった。」とっていると、最初は10羽位が車庫の照明器具の吊り金具に止まったり、またどこかへ行ったりと、数日間、行ったり来たりしていた。しばらくすると見当たらなくなってしまい、どこか他の住みやすい場所に行ってしまったかなあと少し淋しい気がしたが、数日後、一組のつがいが吊り金具に止まっていて、戻ってきてくれたんだと思い嬉しくなった。そして二羽は金具の上の方に巣作りを始めた。

しばらくすると、親鳥は卵を温めはじめたようだった。二羽のツバメの子育てがこれから始まる、何とか見守りたい、応援したい気持ちになった。卵からヒナに孵化するとき、内側からヒナが、外側から親鳥が卵を割っていくこの時、早すぎても遅すぎても卵は孵化しないのです(機関誌の名になっています)。・・・卵は孵ったはずなのにヒナの鳴き声が聞こえない、どうしたのか、少し心配になったが、しばらく経った日に親鳥がエサを運んでいる姿があった。ヒナ鳥は、巣の中から大きな口を開けていた。その光景を見て、自分の昔を思い出した。

私が、高校生の時は生意気盛りであったが、親にはよく質問をした、そして親もよく応えてくれた。

ある日、夕食をしながらいつものように質問をし、親からの応えがあった後に、口の廻りに黄色いものが付いていると言われた。食事中的こともあってか、拭ってみたが何もない。「付いていないよ」と返答したが、そのやり取りを聞いていた母はニコニコして笑っていた。「何もついてないすら～」と再度言い返したが、その話はそこで終わった。数年後、あの時の話はこういうことかと気づいた。生意気なことをいつも言うが、親に飯を食わせてもらっているうちは、まだまだ「ひよっこだ」。口ばしが黄色いうちは一人前ではない、早く一人前になれ、自立しろ！と言いたかったところを、ヒヨコに例えて「口に何か黄色いものが付いている」とのことだったのだと思う。



出勤時と退勤時には毎日、郷の車庫の上を見上げては「ツバメの親子は元気にしているかな」と半分はワクワクしながら、もう半分は「早く大きくなれよ」と自分が育てているわけではないが、親のような気持ちになった。

一方、本当の親鳥の二羽は、巣と外をいったり来たりして、せっせとエサを運んでいる。親も大変だなあ〜と見ていたが、親鳥がエサを運ぶたびに「ヒナ」は黄色い大きな口を開けてエサをねだるのである。この光景を見ていて、遠い昔を想う自分がいた。

しばらくして、巣立ちをしたツバメは、秋を向えるため、親子や仲間と共に遠いどこかの国に旅立っていったのだろうと思う。そして今年も、ここの「郷」で育ったツバメが親となり、子育てする姿が見られることを楽しみにしたい。もし戻ってこなくとも、また、遠い地にいても「郷」を想いながら、広く青い大空を元気に飛び廻ってほしい。同じように島の子ども達も、中学や高校を卒業すると、多くの人が島から巣立っていきます。その後、国内国外で活躍することになります。いずれは島に戻ってくる人たちも、家族と共に色々身に付けた大きな土産を携えて、島の発展に寄与してもらい、「みんなが明るい希望をもった島」になることを願ってやまない。



改めて 対話・コミュニケーションの大切さ

教育長職務代理者 山田 三正

今学校では、子ども達に「主体的・対話的な学習でより深い学びを」をしようということで、子供同士の協力・行動、教員や地域の人との対話により、先哲の考え今まで学んだことから自分が考えること等を通して、自分の考えを広げ深める事ができる力の育成を目指しています。

さて、年末恒例令和4年を一文字で表す漢字は「戦」でした。ロシアのウクライナ侵攻が2月から始まり、年末も引き続いていました。年末にはサッカーワールドカップの日本ベスト16グループ1位となった戦い。コロナ感染症との戦い。物価高。日本国内だけでなく世界中の様子を戦の文字で表したものと考えます。

日本の物価高は円安と他国の金融緩和、海外の原油や食糧情勢も大きな要因。ワールドカップでは当然世界上位の国との対戦。コロナ感染や渡り鳥による鳥インフルエンザの感染等々。

今、生活上の「グローバル社会」では、国や地域を超えて、政治・社会・文化・宗教などの違いも含めて、経済やモノ、人材、情報などの取り引きが行われます。どんなこともその国の中だけで完結せず、全世界的、地球的に良くも悪くも影響し合う社会ということでしょうか。

そこで大切なのがコミュニケーションです。お互いに話す、理解する、伝える、判断する等いろいろな力が必要です。世界・外国を考えると、伝える道具として外国語・英語を学ぶことで、言語的な理解力を高める必要があります。また経験や感覚だけでなく、客観的に文章や計算式、図表などで説明できる力も大切になります。インターネットの世界もです。国内そして友達同士でも当然です。先述の対話的な学習においてもです。

中でも大切なことは相互理解だと思えます。伝えることと受け止めることです。

会話や伝えるがよくできることはとても大切です。それと同様に、話す材料をきちんと持っていることが大切です。自分の考えを持ち、きちんと主張し伝えることです。材料とは、目の前の課題、解決しなければならない事、今現在のことばかりではなく、過去に起きたことそして自分の考えです。そしてさらに相手の話を聞くということなのです。

英語がすごく上手で、相手の国のこと、民族のことを十分に理解できたとします。そこで、一つの物事を決めようとするときに、何が問題でなにをしたら良いのか等を、相手国の人から「あなたはどうか、日本ではどのようになっていて、どう考えているのですか」と問われたとき、

自分の事、日本の国の文化や習慣や基本的な考え方を知らなければ答えられません。日本の国の中に脈々として語り継がれ、行われ継がれてきた文化を知ることが大事なのです。あなたの生まれ育ったところではどうですか。

学習でも同様です。今学んでいること（目の前の課題・問題）を理解し、自分の考えを持ち伝える。主張する。そして、他の人の意見・話（いろいろな見方）を聞いて理解を深めて自分の考えをより深く・向上させる。そのために相互理解です。伝え合い聞き合う事です。この場合の相互とは、友達や人相手だけでなく学習内容や課題そのものでもあります。

コミュニケーションは、伝達と感受。人と人の関係、自分自身の理解把握、主張、そして相手を思いやる気持ち、理解する力、伝える技術・道具など様々な要素を磨き上げと思います。



【我逢人(がほうじん)】・・・われ、ひとにあう

委員 井島 吉春

私が書道を本格的に習い始めたのは高校に入ってからで、それまでは学校の授業ぐらいしか筆を学んだことはなく、実家はお寺なので書道用具などは何でもそろっていたが、住職である祖父から手ほどきを受けたこともないし、書き初めの宿題を見せた時など、どんなにひどい字に仕上がったとしても「上等、上等、よく書けた」と言って直してくれることなど決してなかった。本当にこれで良いのかと思ったが良いはずもなく、しかしヘタな字を書き続けるしかなかった。

中学生のある時、親戚筋の人からおまへの字は何だ、もっと丁寧にちゃんと書けと言われ、とてもくやしかったがどうすることもできなかった。そのうち高校入学となり同時に仏門の世界に入ることとなった。修行寺と仏教系高校でそれぞれ何人かの書道の先生と出会い、中でもH先生との出会いは運命的というか衝撃的なものであった。その先生のお稽古は大広間で50人位が一堂に習うのだが、一人一人に直接その場で手本を書いてくれる。各々が紙を自前で用意して先生の机の上に置くとその場でサッと書いてくれる。楷書、行書、草書、仮名、どんな書体でも一本の筆で巧みに揮毫し、その書いた字は浮き上がってこちらに迫ってくる様に感じられ何とも不思議な手本書きであった。隣で正座し見ている私達は、それこそ腰がぬけるというか腰が砕ける程の感動を受け、ため息をつきながらその場で酔いしれた。何てカッコイイのだろう、私もいつかこんな先生になりたい。この時、自分は一生書道に関わりながら生きてゆこうと心に誓った。

しかし、困ったことにどうしても上手く書けない。タテ線のトメ、ハネ、右ハライなど何度やっても満足できる形にはならなかった。月日が経ってからH先生に筆の相談をした。H先生が使っている筆（かなり古めかしい筆だった）と同じものを使えば上手書けるのではないかと考えた私は先生に頼み込んで同じ筆を買ってきてもらいそれを使ってみた。当時の私は1500円位の筆を使っていたのだが、先生が買ってきてくれた筆はKという店のもので1200円だった。案外安い筆なのだなあといいながら使ってみたら、とてもしなやかで書きやすい。線質も良くなり、まだまだ上手く書けないにしてもお稽古が楽しくなってきた。

先生と筆の話をいろいろしていると、この1200円の筆は同じ仕様で上等な毛質のものがいくつかあることを知った。いつの日かそれを使ってみたいものだと思いながら高校卒業となりH先生のもとを離れることになった。

大学在学中も何人かの先生に指導を受けいろいろな筆も使ってみたが結局高校時代の1200円の筆が一番使いやすかった。夏休みに思いきってそのK店に行くことにした。東京から愛知県までかなり遠いが同じ仕様の上等なものを使ってみたかったのでわくわくしながら新幹線で直行した。

書道専門店（文具店ではない書道用品店）というのはだいたい活気がなく、入りにくいというのが定番だが、その店も同じく独特の雰囲気は漂っていて新参者が入るにはかなりハードルが高かったが、ここまで来たのだから勇気を出して店に入ると誰もいなく、ごめん下さいと言うと奥からおじいさんの様な人が出てきた。H先生の紹介で来たこと、筆がほしいこと等を伝えると、ああこれですねと言いながら馴染みの1200円の筆を出してきてくれた。「この筆に上等なものがあると聞いていますがどれですか」と聞くと7000円のものがありますと言う。その筆がほしいと伝え、あなたが使うのであれば1200円のものの方が良いといい、売ってくれない様子である。あれこれやり取りして結局1200円の筆を3本購入して釈然としないうまま帰路についた。

年月が経ち私は住職に就任した。そして再びK店へ筆を買いに行くことにした。店は昔から相も変わらず陰気な店内で声をかけると奥から中年の男性が出てきたのでH先生の紹介で来たことを言うと、ああこれですねと1200円の筆を出してくれた。実は以前上等の7000円の筆をほしいと言ったら断られたと言うとその男性は笑いながら「ああ、それはうちの親父でそうゆう所があったのですよ」と言い、話を聞くと悪気があって売らなかったのではなく、1200円のものでも良い筆なので別に無駄なお金をかける必要がないとの考えで、特に若い人にはそのように接していたらしい。

何はともあれ数年越しとなるが今回はすんなりと7000円の筆を手に入れることができ使ってみたが、初めて1200円の筆を手にした時のときめきの様なものは感じられず、書きやすいことは書きやすいのだが、ただそれだけであった。あの老主人の言ったことはこうゆうことだったのかと、ようやく悟ることができた。

道具はその人その人によって適しているものがあり、今の自分に合った道具を正しく使うことで本人の実力を最大限発揮できるものである。道具も道具を作っている人もその様な使われ方を望んでいるのではないだろうか。

もう40年以上も前の事で私の書風も変わり現在も売られているその筆（価格は変わっている）を使うことはめったにないが自分としての書道の出発点、原点はあの時だったと思っている。自分を書道の世界へ引き込んでくれたH先生、筆の極意を教えてくれたK店の老主人、共に私の恩師恩人だと今でも感謝している。

人との出会い、縁というものは不思議でとてもありがたいものである。「我逢人」これからもこの良い出会い良い縁を大切にしたいと思う。



「グッドルーザー」

委員 山本 忠夫

サッカーワールドカップ、日本代表チームはドイツ、スペインを破り、決勝トーナメント進出という快挙。ベスト8を賭けてクロアチアに挑み惜しくも敗れましたが素晴らしい結果だと思いました。そしてこの期間、監督、選手の姿がとても記憶に残りました。

それはコスタリカに負けたあと。ワールドカップ優勝経験のあるドイツに初めて勝った後ただけに、手抜きしなければ勝つだろうと思われてしまったからなのか、負けた時の批判もすごかった。それを聞いて私はあまり良い気持ちにはなれませんでした。どれだけ準備をしても勝負には運もかなりあります。一生懸命やってもミスはします。負けたことは監督や選手が一番悔しいはずなのに、その上に周囲から叩かれてしまうことで本当に辛い思いをしていたと思います。

そんな困難にも挫けず戦ったスペイン戦の勝利、そして奇跡を信じて戦ったクロアチアとの激戦。ものすごいプレッシャーの中で、自分を信じ、仲間を信じ、必死に心を整えて戦った。その結果、負けた悔しさはすごくあったと思うのですが、誰に何と言われようと次に向かおうとする監督、選手の堂々とした態度や言動は、すごく気持ちよく感じました。

「グッドルーザー」という言葉があります。直訳で「善き敗者」という意味なのですが、広瀬一郎著書の『スポーツマンシップを考える』の中では〈ある人が真にスポーツマンであるかどうかは、勝負に負けたときの態度でわかる。負けた時に素直に負けを認め、それでいて頭を垂れず、相手を称え、意気消沈せず、すぐ次に備える人が真のスポーツマンだ〉と書かれていました。

そしてサッカーの元チェアマンの川淵三郎さんの言葉には、「スポーツマンと呼ばれるために大切な要素は、勝敗もあるけど、最後に…見てくれたすべての人を幸せな気持ちにさせること」とありました。

それは勝った人への賞賛だけでなく、負けた人の態度の素晴らしさでも人は感動する。人を幸せな気持ちにさせるのは勝者だけではない。そんな角度からスポーツを見ることができると、私は本当にスポーツっていいなと思います。

相手がいて、審判がいて、仲間がいて、応援してくれる人がいる。必死に努力し試合に臨み、勝っても負けてもそのすべての人を称え尊重し感謝する。そして次へ備え努力を始める。それをスポーツマンと呼ぶのなら、そんな人がたくさん増えて欲しい。

メダルを取っても忘れられる人は忘れられる。でも、グッドルーザーは永久に語り継がれる。そんな世界になって欲しいと思います。



心の栄養

委員 宮本 里香

吉田拓郎さんが、昨年で芸能活動を引退しました。17年前、知り合いから『吉田拓郎&かぐや姫 コンサート インつま恋 2006』に来ませんかと声をかけていただきました。当時、子供は小・中学生だったので、土曜日の授業を早退させて、コンサートに連れていくという選択肢がなく、お断りをさせていただきましたが、そのことを中学生の息子が先生に話すと、そんないい話があるなら行ったほうがいいと言ってもらい、コンサート近くになって見に行かせていただくことになりました。屋外の会場には、屋台がたくさんあり、1970年代の若者が大勢いて、お祭りのような、賑やかで穏やかな雰囲気での会場でした。エリアごとにロープで区切られ、一つのエリアには100人くらいの人が入り、落ち着いた雰囲気、コンサートの開始をワクワクしながら待っているのが伝わってきました。コンサートが始まると、一斉に沸く歓声、どよめきは初めて感じる体験でした。たくさんの方がいるのに、押し合ったりすることもなく、皆コンサートを楽しんでいました。特に驚いたことはコンサート後の何万人もいた会場にごみが落ちていないことでした。このような相手を思いやる日本人の姿勢は今も海外でも称賛されています。宿泊先は急だったので、コンサート後に忙しく仕事をしているスタッフの部屋の奥の一角をお借りしました。朝、目が覚めると、スタッフが朝方まで必死に頑張ったという姿で寝ていました。多くの人に感動や希望や生きがいなどを与えるアーティストの裏にはたくさんの方が一生懸命に動き、作り上げている姿を目の当たりにして、どんな職業も、人と人が支えあい、協力しあって成り立っていることを実感しました。

気持ちがふさぎ込み、苦しいときなどは、少し視点を変えて、コンサートやスポーツ観戦等々、気分転換をしてみることは心の栄養になり、とても大切なことだと、身をもって感じました。今年は一歩踏み出して、心の栄養を蓄えたいと思っています。



【大島町教育相談室のご案内】

大島町教育相談室は、教育相談員・指導員・社会福祉総合相談担当の6名体制で、子ども達や保護者、教職員のための相談対応、支援を行っています。

教育相談事業

不登校・いじめ・発達の遅れ・学業不振・非行など、子ども（小・中学生）のあらゆる教育相談について、本人や保護者及び学校関係者のご相談をお受けします。

適応指導教室「パレット」

さまざまな理由で学校に行きにくかったり、教室に入れなくなったり、登校できないでいる小・中学生のための居場所です。一人一人に応じた体験活動や学習活動を行い、学校復帰や進路の実現に向けて支援をしていきます。

困ったり、悩んでしまった時は、迷わず（2-4544へ）直通電話連絡ください。

【連絡先】大島町元町字丸塚 548 番 1 「大島町生涯学習センター・郷」内（2階）

メールアドレス：kyouikusoudan@citrus.ocn.ne.jp

※なお、来室される方は、教育相談員が学校訪問するなど不在の場合がありますので、事前にお電話にて確認のうえお出掛け下さい。

※啐啄（そったく）とは

鳥の卵が孵化しようとするとき、殻の中で雛鳥が外に出ようとして内からコツコツ殻をたたき音を「啐」といい、母鳥がその孵化の瞬間を悟り、殻の外をコツコツつき破ることを「啄」といいます。この啐と啄の呼吸が合うとうまく殻が割れ、丈夫な雛が誕生しますが、どちらか早すぎても遅すぎても良い雛は生まれません。教育も教わる側の生徒と教える側の先生が、啐・啄同時である事が理想であり、依って大島町教育委員会便りを『啐啄』と名づけました。

2月・3月・4月の予定



- 2月 4日（土） 少年野球大会
- 2月19日（日） 芸能大会
- 3月 3日（金）～5日（日） 作品展
- 3月17日（金） 中学校卒業式
- 3月23日（木） 小学校卒業式
- 3月26日（日）～
- 4月5日（水） 学校春季休業日
- 4月 6日（木） 中学校入学式
- 4月 7日（金） 小学校入学式



大島町生涯学習センター・郷
令和3年2月開館
1階 図書館
2階 教育委員会事務所ほか

